日本產蟻類の習性と分布 (III)

寺　西　　暢

JAPANESE ANTS, THEIR BEHAVIOR AND DISTRIBUTION (III)

CHO TERANISHI.

筆者は以前動物學雜誌第 488—9號 (1929) に同一の表題のもとに 50 種を擧げて其等の習性と分布の一端を記述したが本稿に於て之が追加を試みやうと思ふ。之迄擧げたものは先づ比較的普通のものであつたが本稿で取扱ふものは其殆んど凡てが日本では極めて少い珍らしいもので從て筆者の持つ資料も亦甚だ乏しく今後の觀察と調査に待つ所が多い。

1. *Stigmatomma silvestrii* WHEELER

ノコギリハリアリ

Prof. WHEELER[1] は SILVESTRI が奈良で得た 2 頭の職蟻で之を書いた。臺灣には此屬のものゝ居る事は既に知られて居たが日本內地からは之が最初の記錄である。私が此蟻を始めて得たのは 1922 年 4 月 29 日横濱の根岸の山の手で櫻の大木の根方、稍陰鬱で濕潤な、一般ハリアリ類の棲息地としての條件を具へた所で一疋の職蟻を見付けた。其の附近を可成り精密に調べたが巢の所在は勿論、他の 1 疋をも發見出來なかつた。昨年京大昆蟲學研究室の德永氏から寄贈を受けた標本の中に京都嵯峨町大澤池附近產の職蟻 2、雌 (脫翅) 1 (田畠氏採集 1932 年 8 月中旬) があつた。桑畠の地下 1—2 尺の所から發見されたさうである。雌は未知のものであるが此の記載は別の機會に發表する。

此蟻の產地として明らかになつた所は横濱根岸、奈良、京都嵯峨の三個所である。此屬のものは全世界に廣く分布しては居るが何れの地にも珍らしい稀れな蟻である。

---

1) Boll. Labor. Zool. gen. agr., XXI, pp. 97—98, 1928.

2. ***Sysphincta watasei*** WHEELER

ワタセハリアリ

H. SAUTER が岡山でとつた職蟻と、渡瀬博士が鎌倉で發見された脫翅雌の何れも1頭で WHEELER[2] の書いた珍らしい蟻で、渡瀬博士は之れを海岸に打上げられた流木の下で採られたと云ふ事である。尙 WHEELER (1928) は1脫翅雌を九州の "Otsu" から得たと報告して居る。杉原勇三氏[3] は高知市内に之を發見された。

此屬及び前記の *Stigmatomma* 並に *Fonera* は1群の員數が極めて少ない事が其の理由であらうと思はれるが、巢を發見した場合の外之れを數頭同時に同一の場所に見付けると云ふことは殆んどないと云つてよい。眼は甚だしく退化して居て擧動は甚だ遲鈍で地上に出て來る事は極めて稀れである。私は未だ之の蟻の巢を見た事がないが其れは恐らく單に細い隧道の連續で立派な Cell を造る事はないと思ふ。建設雌は始め地上の石、倒木等の下に來るらしい。私は大阪の自宅の庭園内に蟻寄せのために設置した瓦の下に建設雌2頭を得た。

筆者の所藏標本の示す產地は、1雌、東京市靑山 (IX, 1915 燈火に飛來) 1雄、東京高雄山 (23, VIII, 1919) 3雌 (脫翅) 京都龜岡の東方通稱金比羅山麓 (IV, 1925) 2雌 (脫翅) 大阪市旭區生江町 (IX, 1927)。

3. ***Ectomomyrmex sauteri*** FOREL

シロヤマハリアリ (新稱)

臺灣 "Pilam, Akau" 產[4] の職蟻で始めて書かれたが日本內地では知られて居なかつた。矢野宗幹氏[5] は之れが鹿兒島縣の城山々麓に產する事を報告された。尤も氏は *Sauteri* と確定はして居られないが私は同氏から1職蟻の標本を頂いて其後之を *Sauteri* であると考へる樣になつた。

之れと近似の *E. japonicus* EMERY の性質から推測すると痛みを感ずる程度に刺す事の出來る蟻と思はれる。ハリアリ亞科中でも此屬、及 *Euponera* 等は

2) Bull. Amer. Mus. Nat. Hist., XXII, pp. 303—304, 1906.

3) 關西昆蟲學雜誌 3 p. 26, 1933.

4) Ent. Mitteil., I, Nr. 2, pp. 49—50, 1912.

5) 史蹟名勝天然紀念物 VI, 4, pp. 1—5, 1931.

體も相等大きく足も丈夫で歩行は敏活である。臺中市では2月初旬にも緩慢ながら活動して居る。

4. ***Vollenhovia emeryi*** WHEELER subsp. ***chosenica*** WHEELER

チヨウセンウメマツアリ(新稱)

朝鮮の "Suijen" (Suigen 水原？) だけが產地として知られて居たが、私は下泉重吉氏の東京附近での採品中に小田原急行沿線の經堂產の2雌(脫翅)1職蟻 (V, 1928) を發見した。同氏は之を杉の古木の樹皮下に得られた所から見ると營巢の場所は原種の *emeryi* と同樣らしい。

5. ***Tapinoma*** (***Micromyrma***) ***melanocephalum*** FABRICIUS

コヌカアリ

此の蟻が大阪天王寺植物園附屬溫室に居る事は前に報告した[6] 而して溫室外には發見する事が出來ないから植物と共に輸入されたものであらうと附言して置いた。本年1月下旬鹿兒島市へ行つた際、市の南端天保山の海岸の松の根際にこの蟻の巢を多數に發見した。又雜草で蔽はれた砂中にも見た。

世界共通の蟻で日本では臺灣、沖繩が知られて居る。四國の足摺、室戸の兩半島には或は居りはしないかと思はれるが非常に微小で其上灰色であるから注意しないと見のがす。

6. ***Polyrhachis*** (***Myrmhopla***) ***hippomanes*** F. SMITH var. ***moesta*** EMERY

チクシトゲアリ

Sumatra 及支那 (Mokanshan zo-cé, zi-ka-wei) から知られた此の蟻は日本では矢野氏[7] が明治 41 年7月、熊本市外本妙寺の西方にて松樹表皮中に1小巢を發見されて報告して居られる。學名は決定されなかつたが *hippomanes* に近緣のものである事を指摘された。

筆者は 1930 年5月初旬山口縣岩國の公園附近でこの蟻の脫翅した雌が點々としてフキ或はタケの葉の上に居るのを見付け、其の巢を發見したいものと附

6) 昆蟲 II, pp. 53—54, 1927.

7) 動雜 XXIII, pp. 254—256, 1911.

近を探査して終に垣根に用ひた徑 22 cm. 位のタケの莖中に之れを得た。約 400 頭からなる1群で、タケの切口には Carton-diaphragms があり其の中央に出入口が造られてあつて、形狀は *Camponotus* (*Myrmamblys*) のものによく似て居る。其後安松京三氏の九州での採品を檢した際福岡縣平尾產の職蟻を得た。氏は朽幹の地面に近い皮下で發見された由である。杉原勇三氏は高知縣須崎で之を得られた。尙矢野宗幹氏から氏が千葉縣淸澄山(?)で發見されたと云ふ話を聞いた。

此の蟻も多くの南方種が示す如く表日本の沿岸地方に沿つて北上し房總半島に達して居ると云ふ樣な分布狀態を持つものらしい。

最近京都附近にて採集された注意すべき葉蜂

竹　內　吉　藏

信州の山地及び本邦の北部にはかなり普通に產するがこれまで京阪地方にて採集されなかつた葉蜂 2,3 を京都附近にて獲たので餘白を利用して報告する。

1. *Tenthredella jozana* MATSUMURA (=*fuscata* ENSLIN) 北海道及び信州の山地にはかなり普通に產する葉蜂で京都附近に產するとは豫想してゐなかつが私は比良山の山頂近くで 1♂ を獲た (22. VI. 1927)。尙 MALAISE (1931) は東部 Siberia より記錄されて居る。

2. *Tenthredella versuta* MOCSARY (=*hakonensis* ROHWER) 本種は前種より稍々南方にて採集されてゐるが矢張京都附近に產するとは豫想してゐなかつた。私は本年9月8日貴船にて 1♀ を獲る事が出來た。

3. *Emphytus nakabusensis* TAKEUCHI 私は本種記載後北海道にて 1♀ を獲たのみで珍稀な葉蜂と思つてゐた。ところが昨年6月12日愛宕山の頂上近くに多產するのに驚いた。